桜（1946）

メディア 映画　アニメ
ジャンル
製作国　日本
色彩　B&W
初公開日 1946

【解説】
　戦後の1945年11月、政岡憲三と山本早苗が創設した新会社・日本漫画映画社の第一号作品。
　ドイツのロマン派音楽家ウェーバーのクラシック「舞踏への勧誘」をバックにした作品で、特に劇的なストーリーなどはない。桜の舞い散る春の日、擬人化された蝶々の姉弟が外を飛び回り、ポックリ下駄を履いた舞子さんや子犬たちと行き交い、そして川を下る舟を眺めるというもの。一説には、政岡がディズニー作品『ファンタジア』に刺激されて企画したともいわれる。純日本画風の世界が叙情的によって描き出され、観た者に鮮やかな印象を刻む。なお擬人化された蝶の姉弟の顔は、当時の少女雑誌で人気だった挿し絵画家の辰巳まさえが担当。他にも童画家の黒崎義介、絵本画家の安井小弥太など各界の画家たちが作画に参加している。娯楽性を撤廃して芸術性を訴求したアニメの嚆矢であり、それ故に完成後オクラ入りしていたが、いつしか『春の幻想』の題名で海賊版が世間に流出。人目に触れるようになった。

【クレジット】
演出　政岡憲三
製作　山本早苗

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.